



認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

〒151-0071 東京都渋谷区本町3-48-21-303
TEL:03-3372-9777 FAX:03-5351-2395
E-mail:info@baj-npo.org

郵便振替口座 00130-1-739924 口座名 ブリッジエーシアジャパン



www.baj-npo.org

BAJで検索! ▼

BAJ 🔍



認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

年次報告書

2023年1月1日~12月31日

2023年度



2021年～2023年度の海外活動

2021年2月にミャンマー国内で起きた軍事クーデターに続き、2022年8月に援助機関に発せられた「ラカイン州北部8郡における援助活動の許可制」、および「登録(MOU)のない団体への「市街移動の厳格な管理政策」と「ビザ申請不可措置」により、外国人の入域許可は不可となり、さらに10月にはラカイン州での戦闘が始まり、周囲を封鎖されて現地職員は身動きできない状況となり、事実上の活動停止となりました。

in Myanmar

ミャンマー・ラカイン事業事業 **マウンドー事務所**

事業名	内容	2021年	2022年	2023年
車両・ボートなどの修理・整備	台数	562台	180台	23台
	車両整備時間	2,692時間	1,033時間	3,258時間
公共施設建設	小中学校校舎修繕	1校	中断	中断
	公共施設建設	10棟	中断	中断
	貯水池修繕	5か所	中断	中断
	井戸掘削建設・修繕	4本	8本中断	1本(HCR内)
マウンドー総合病院	トイレ・給水塔・他	—	—	5か所
マウンドー総合病院				中断
燃料のろ過	ガンリン	24,575ガロン	25,333ガロン	20,802ガロン
裁縫訓練	参加人数	—	20名	20名
インフラ整備	カルバート建設	4本	7本	—
	アクセス道路建設	4本	2本	—
	ソーラーパネル設置	62か所	—	—
	橋・道路建設	4本	2本	
	井戸修繕	中断	中断	中断

ヤンゴン事業事業

Book&Toy ミニライブラリー	本・おもちゃ棚寄贈	—	5施設	3施設
-------------------	-----------	---	-----	-----

in Vietnam

ベトナム事業 **フエ事務所**

2023年はコロナ禍の収束に従い、対面での活動が再開されました。また日本向けのオンラインによる料理イベントや、新しく環境教育について日本の高校生との交流事業を進めています。

事業名	2021年	2022年	2023年
環境授業実施	24回実施、622人参加	20回実施、576人参加	29回、440人参加 うち5回は日本高校生参加
奨学金授与	55名、2,350万VND	70万ドン、3,100万VND	55名、1,300万VND
直売所運営・売上	11,362,604円	9,548,847円	158,116,310 VND
エコツーリズム実施	3件中止(オンライン)	2件、37名(オンライン)	3件、20名
VN支援東京会議	11回、29名参加	14回、39名参加	10回、23名参加

ごあいさつ

2023年度の事業報告をお届けできること、また創立30周年を迎えることができましたことについて、これまでご支援いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

冒頭から、先の見えないミャンマー情勢とBAJの事業についてご報告します。

2022年8月に当局からの通達「ラカイン州8郡における援助活動の許可制(2022年8月～)」と、団体登録(MOU)のないNGOに対し「市外移動の厳格な管理政策」と「ビザ申請不可処置」により、州内での活動はおろか移動ができない状況となりました。MOU取得のできていないBAJは活動許可が下りません。そこで目立たない活動としてマウンドー市内限定の「女性対象の裁縫訓練」を再開し、人が集まることを避けてBAJ講師が訓練生宅を訪問して指導する方法で開始しました。

2023年5月14日にラカイン州に襲来したサイクロン・モカに対し、当局はNGOに対し一切の支援活動を禁止し、被害の全貌はいまだ明らかになっていません。また、MOUのない団体に対する当局の監視が強まり、BAJはすべての活動を一時中止としました。

MOU取得のため、カウンターパートである村落開発局(DRD)の協力を得て11月初めにMOUを取得することができたものの、11月13日、国軍に敵対するアラカン軍が州最南部の国境警備隊(BGP)基地を攻撃、これを端緒に州内各地のBGP拠点を占領する事態となりました。

これに対し国軍は州内すべての陸路と水路を封鎖、さらに通信を遮断したため州内の援助機関職員や住民は、物価高騰と食糧不足

に直面することになりました。

BAJはラカイン州で進めてきたほとんどの事業を停止、職員の安全確保と避難準備を進めることに専念し、活動を進めることは困難となりました。

一方、BAJが長年継続してきた中央乾燥地域での水供給事業についてDRDと検討を重ねた結果、深井戸の修繕について見通しが立ち、外務省NGO連携無償資金協力(N連)を得て2024年からの開始が決まりました。もとBAJ職員が地元で立ち上げた水供給グループ(NWSG)と共に進めることになります。

ベトナム事業は大きな問題もなく、地元職員中心にこれまで進めてきています。主な柱は、子どもを対象にした環境問題の授業実施、農家と提携した有機農産物の直売所運営、そしてこれらを基本にした日本からのスタディツアーです。最近スタディツアーを通して環境をテーマに日本とのグループ交流が増えてきました。ますます開発が進むベトナムにあって、環境の課題に取り組むことは、これから大きなテーマになっていくと考えています。

カウンターパートのフエ市経済局と連携しながら、ベトナム事業を進めていきます。



認定特定非営利活動法人
ブリッジ エーシア ジャパン

代表 **根本 悦子**

BAJの4つの使命

The Four Commitments of BAJ

<p>1</p> <p>技術習得や 能力強化の 機会を提供します</p> 	<p>2</p> <p>収入向上を 支援します</p> 	<p>3</p> <p>地域発展 のための 環境基盤の 整備を進めます</p> 	<p>4</p> <p>環境を守り 啓発活動を 進めます</p> 
--	---	---	--

MYANMAR



海外支援活動 ミャンマーでの活動

2021年のクーデター以降、ラカイン州では2023年から、海外NGOに対し事実上の活動停止措置として「ラカイン州北部8郡における援助活動の許可制(2022年8月～)」、また団体登録(MOU)のない団体に対し「市外移動の厳格な管理政策」と「ビザ申請不可措置」が続きました。これにより国際職員や専門家を派遣することができず、業務連絡はオンラインのみとなり、2023年に実施予定の事業は休止状態となり、撤退するNGOも出ています。

5月にラカイン州に襲来したサイクロン・モカは住民を直撃しましたが、当局による厳格な国外からの支援制限により、犠牲者などの実態は分かりません。国内避難民や国外脱出を図る難民も増え続け、その数は250万人に上るといった報道もあります。

11月、アラカン軍(少数民族武装勢力AA軍)がラカイン州ラティダウン郡南部の国境警備隊(BGP)基地を攻撃し、続いて各所の国軍およびBGP拠点を占領するという事態がおきました。国軍はラカイン州への陸路と水路すべてを遮断し、その結果食料や医薬品などの物資が滞り、物価急騰と物資不足



により、住民はおろか援助機関の職員の生活や生命さえ脅かされる結果となりました。BAJはほとんどの活動を停止し、職員の安全確保と避難準備に追われました。

このような状況のなか、比較的安定していると思われる中央乾燥地で活動できないかと、地元で給水事業を進めている元BAJ職員のグループ(NWSG)や、BAJのカウンターパートである村落開発局(DRD)と相談し、深井戸修繕の要望があることが分かりました。2024年3月、資金の用途について実施することが決まりましたが、全体状況が読めないなかで、BAJは安全を確保しながら、できることを粛々と進めています。

ラカイン州の活動

1.ラカイン州地域開発事業 資金：国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)

2022年に引き続きNGOに対して厳しい措置が取られ、専任駐在国際職員や専門家の派遣などができず、日本からオンラインで業務を進めました。とくにラカイン州では5月に襲来したサイクロン・モカ被災により、もともと貧しい地域が被災した打撃は大きいと思われます。さらに当局による厳格な許可政策により国内外の支援の手が届かず、被災の実態は現在も明らかにされていません。

2023年度後半の11月13日、アラカン軍(AA)がラティダウン郡最南部に設置された国境警備隊(BGP)基地を攻撃し、さらに州北部各所の国軍およびBGP拠点を占領する事態となり、国軍は水路と陸路の侵入を防ぐため州全土を封鎖しました。このため州内に取り残された住民は物価高騰と物資不足となり、援助機関の活動停止に加え職員の生活と生命も危機に晒されることになりました。

ラカイン州の内戦激化によりBAJはほとんどの活動を停止し、職員の安全確保と避難準備に追われました。年度末の燃料価格は年初に比べ約4倍になり、銀行引き出し制限は週1回200万チャット(約14万円)から12月には20万チャットになりました。停電は常態化し、電話やネット回線も遮断されました。夜間外出禁止令に加え、軍による家族構成・在宅者確認がおこなわれ、徴兵が強化されています。

①車両など機械類の整備

マウンドーで活動するUNHCRや国際機関、NGO、政府機関、行政組織が使用する車両やボートなどの修理や整備、燃料ろ過など進めました。年間作業量は、3,258人時、燃料ろ過量は20,802ガロン(ドラム缶482本)となり、とくに燃料ろ過量は昨年より18%減少しています。主な要因は治安悪化による車両の輸送機稼働率が低下したこと、BAJ職員が作業現場への出張ができなかったことです。



②支援ニーズ即応事業

村落部をの生活改善を目指す地域インフラ整備事業で、さらに就労機会の少ない現地に雇用を生むことを目標に、2019年より開始しました。2023年の計画・進捗状況は右記の通りで、移動許可が取れないことが要因となり、達成できていません。

	村名	内容	着工	進捗	備考
1	Min Ga Lar Sheik Kyar	井戸掘削3基	2021年4月23日	25%	2021年6月中断
2	Ah Bu Gyar	井戸掘削2基	2021年6月1日	10%	
3	Kyauk Hiay Kar	学校建設	—	—	2021年度契約の継承
4	Pa Dan	井戸掘削1基	—	—	
5	Nyaung Chaung	井戸掘削2基	—	—	

③給水・衛生施設の改善事業

村落部への移動許可が不要なマウンドー市街地内で中核病院の給水とトイレなどの設備を建設しました。11月5日に国連難民高等弁務官補が視察し、また事業の実施の目的が立たないなかインフラ部門の仕事ができることなどBAJ職員の意欲を維持できることや、また対外的に存在感を示すことができました。

市街地の学校12か所や隣接する村に対する同様の活動についても、UNHCRと調整しましたが、当局からの許可を得ることができず、中止となりました。

	施設	建設内容	着工	完了
マウンドー総合病院		井戸掘削1基	2023年3月23日	2023年4月28日
		トイレ2基	2023年3月23日	2023年9月8日
		給水塔・総帥施設	2023年4月29日	2023年9月22日
		室内浴室・トイレ	2023年6月6日	2023年7月28日

④災害復旧事業

5月13日にラカイン州に襲来したサイクロン・モカにより損壊した施設の復旧事業では、実施に際して当局の許可が必要なため、6月にラティダウン南部のアングモ棧橋修復を当局に申し出ました。同棧橋は2005年にBAJが建設したもので、州都シトウエへの移動時間を大幅に短縮できるため、修復は地元の要望もありました。当局との折衝を何度かおこない、10月にようやく許可が出ました。この間並行してUNHCRに対し支援ニーズ即応事業の予算流用と契約変更の協議をおこなって承認を得ました。ところが11月にアングモ棧橋の近くにアラカン軍が侵攻したため国軍との戦闘が起き、職員退避とともに活動停止となりました。

11月25日以降はアラカン軍の支配地域となり、棧橋修復事業の目的はたつていません。

⑤その他のインフラ事業

契約外の活動として、UNHCRの要請で同敷地内に1基の井戸を掘削しました。

2.裁縫訓練を通じた女性の能力開発事業 資金：自己資金・クラウドファンディング

ラカイン州はチン州に次ぐ貧困地域であり、とくにムスリムの女性は学ぶ機会も少なく、生活では宗教的な制約を強く受けています。BAJの裁縫訓練では、ムスリムのみならず貧困女性を対象に、収入向上につながる裁縫訓練として基礎課程45日、応用課程60日のほかに、疾病予防、栄養学、母子保健、衛生知識など幅広く学びます。またムスリムに加え、ラカイン、ヒンドゥ、少数民族の女性たちが一緒に学ぶことで民族間の融和を目指す活動でもあります。加えて裁縫は言葉が多少理解できなくても、実際に手を動かして見せることで理解出来る作業でもあります。

2021年2月のクーデター後、NGOに対する締め付けが厳しくなりはじめ、できることを小規模に始めようと、5年間中断していた裁縫訓練を少人数で再開したのは2022年6月でした。ラカイン10名、ムスリム7名、ヒンドゥ3名の20名で出発です。

BAJマウンダー事務所の一角を占める裁縫教室を修理し、ミシンの調子を整えて始めました。コースは6月から8月9日までの基礎コースと8月15日から11月8日までの応用コースです。しかし9月に入って国軍と民族組織の戦闘が激しくなり、当局の指示に従い9月19日で応用課程を一時閉講としました。

中断に追い込まれましたが、訓練生からは再開の要望が強く、そこで考えたのが、講師が訓練生の家を訪問して教えるという方法です。ミシンを家庭に持ち込み、講師が対面で教えます。2022年の11月から2023年3月末まで「訪問型訓練」は継続しました。家庭の事情などで、訪問型訓練性は14人になっていました。

2023年3月、郡長官と非公式な会議をもち、訓練生の再開に向けた強い要望や貧困女性の能力開発、地元経済への貢献などを訴え、理解を得ることができました。5月に再集めた訓練生は15名、結婚や進学で事情が変わった人もいましたが、久しぶりに仲間が集まることができました。

中断した応用課程の残りは35日間。ブラウスやスカートの採寸、計算、型紙作成、生地裁断、縫製などを進めました。2022年の開講から一年以上かかりましたが、全過程を終了しました。

期間	内容	出欠状況
5月2日～5日	裁断、ワンピースの裁断・縫製、ジェンダー情報	100%
5月8日～12日	ワンピース・縫製、前あきブラウス採寸、貧血情報	100%
5月15日～18日	前あきブラウス裁断・縫製、貧血情報	100%
5月22日～26日	前あきブラウス縫製、布合わせスカート採寸など	97%
5月29日～6月2日	布合わせスカート縫製、袖なしブラウス・縫製、採寸・裁断	97%
6月5日～9日	布合わせスカート・縫製、袖なしブラウス・裁断、清潔維持	97%
6月12日～16日	袖なしブラウス・縫製、復習演習	97%
6月19日～22日	袖なしブラウス・縫製、修了式	100%



2023年度事業は8月に開始、ラカイン10名、ムスリム7名、ヒンドゥ3名の20名で、基礎課程から始めました。引続き応用課程を10月23日に開講しましたが、BAJ本部で団体登録に向けた当局による調査が始まり、正式な許可がない状態の活動が発覚することを恐れ、10月末以降休止としました。11月20日に再開予定でしたが、内戦の激化で再び休止となりました。政情や許可など不確定要素が多く、残念ながら2024年も再開の見通しはたっていません。

期間	内容	出欠状況
8月3日～4日	開会式・縫製用語・手縫い見本・ミシン基礎練習・健康情報(手洗い)	100%
8月7日～11日	刺し方基本・ステッチ基本(17種)・衛生促進と台所の清掃	98%
9月4日～8日	男児用シャツの採寸・型紙作成・PSEAの啓もう・女児用ワンピース	98%
9月11日～15日	ロンジーとスカートの採寸・計算方法・裁断・縫い方・健康知識	95%
10月2日～5日	基本縫いサンプル縫製・前開きシャツの計測・計算・修了式	96%
10月23日～27日	応用コース開講式・オリエンテーション・枕カバー型紙・保健衛生	92%



3.マウンダー事務所の事業と運営

ラカイン州マウンダー事務所は州事業全体の活動を把握し、スムーズな運営のためドナー団体や地元当局との折衝などおこない、活動全体の進捗を諮ります。

① UNHCR対応

週および月の活動報告を提出し、隔週会議・緊急会議で業務の調整と情報共有を進めました。10月以降はUNHCRの新事業管理システムへの対応作業として、複数回の説明会に出席し、新書式とウェブサイトを通じた書類の受け渡しにより次年度契約の準備を進めました。

しかし2024年度については、ラカイン州の内戦が継続しており、不確定要素が多く、今後の動きを注視して進めざるを得ない状況です。

② 事業許可の取得と調整

マウンダーで実施している4事業(支援ニーズ即応事業、給水・衛生施設改善事業、災害復旧事業、女性の能力開発事業)の許可取得について、政策変更や災害発生など不確定要素に振り回されることが多くありました。

11月以降次年度の契約に係る予算と活動計画策定についてUNHCRと折衝が続き、内戦の影響による未達事業の次年度への繰り入れと予算の扱いなど合意できないまま年内の契約に至りませんでした。

③ 人事・労務

年度末の現地職員は2022年より5名少ない45名でしたが、事業縮小と予算縮減のため12月末日付けで20名が退職となり2024年1月の現地職員数は25名になりました。

④ 研修

現地職員の能力向上と業務意欲醸成の目的で、UNHCRやその他の組織が実施する研修に参加しました。「性的搾取と虐待からの保護」を受講した職員は、9月に裁縫訓練の参加女性を対象に講義をおこない、参加の成果を業務に生かしました。

	研修内容(主催)	参加者	場所
2月10日	社会的性差と財産権(DP/ISEF)	3名	オンライン
3月14日	人権(OCHA)	7名	オンライン
5月2日～4日	調達(UNHCR)	4名	マウンダー
5月31日	ウェブ報告(UNHCR)	1名	マウンダー
7月25日～27日	性的搾取と虐待からの国内避難民保護(UNHCR)	3名	マウンダー
9月14日～15日	持続可能な解決のインクルージョン推進(UNHCR)	1名	オンライン
9月28日	調達(UNHCR)	3名	マウンダー
10月17日、24日	会計(UNHCR)	2名	マウンダー
12月11日～14日	人道的な備えと対応(UNHCR)	1名	オンライン

⑤ 緊急事態対応

5月14日に襲来したサイクロン・モカについては、事前に重要書類や資機材の移動、防水対策をおこない、一部はプティタウンに避難させるなどして対応しました。翌日以降は職員の安否と事務所の被害状況を把握し、敷地内の倒木など片付けに追われました。

⑥ 内戦対応(11月13日から)

深刻度を増した内戦の対応として、マウンダー市街、戦地に近いインフラ活動現場、マウンダーから州都シトウェへの交通路の状況把握をおこない、現地全職員の現況を把握してウェブ上でいつでも確認できるようにしました。また砲撃に備えて敷地内に塹壕を掘り、敷地外壁と車両の団体ロゴの塗り直しと日の丸を追加しました。2024年1月には建屋の屋根に日の丸、JAPAN、BAJを大きくペイントしました。

勤務は緊迫度を考慮して基本は在宅勤務とし、可能であれば午前中の半日出勤体制としました。またメッセージアプリによる現地職員間の連絡体制を構築し、一斉連絡や報告に活用しています。不安定な銀行業務と物価急騰など考慮し11月から12月給与の前倒しをおこない、現金による支給を進めました。

ヤンゴン事務所の活動

ミャンマー事業全体の運営・管理を進め、東京本部と対外組織や当局との連絡、報告などおこなう「縁の下の力持ち」的存在です。

①INGO登録、覚書(MOU)、新規事業準備

2022年10月に突然改正された団体登録法について、申請書類(登記簿謄本の翻訳作業、組織図、覚書草稿など)を準備し、ネピドー省庁への問い合わせと推薦状の依頼(投資対外経済関係省、出入国管理および労働省、外務省、協同組合・村落開発省、村落開発局)を進めました。

3月1日、ネピドーで カウンターパートである村落開発局(DRD)との会議をもち、ヤンゴンとマウンドーの現地職員が出席して覚書締結と団体登録に向けたBAJの状況を説明しました。DRD側からは覚書の書式や事業計画について具体的な提案があり、これを受けてDRD提案に沿う書式の覚書に基づく事業として「中央乾燥地における生活用水供給事業」の内容検討をおこない、3月半ばに追加資料をネピドーに送りました。

5月10日、事業現地となるマグウェの推薦状を受け、覚書のドラフトをDRDに送信、6月には各省庁からの推薦状が届き、再びネピドーとオンライン会議で覚書締結準備として、事業計画や予算書の確認と修正依頼を受け、内容の変更など進めました。

7月24日、ネピドーで内務省登録局主催の登録に関するワークショップが開催され、国内外の80余りの団体が招待されて参加し、BAJもヤンゴンの職員1名が参加しました。申請の内容については日本のNGO団体と相談して記入しながら完了とし、9月に正式に申請書を登録局に提出しました。

9月半ばに仮登録証を受領、その後下旬に登録局特別調査員からの問い合わせがあったものの11月初旬に正式登録証発行の連絡を受け、受領手続きをおこないました。

12月、東京事務所では中央乾燥地域の深井戸修繕事業について外務省のNGO連携無償資金協力に対し、申請準備を進めました。

②管理・労務など

2021年より現地職員対象に「人材育成管理表」を導入し、各自の目標について評価し、必要な研修なども含めて契約更新をおこなっています。

10月5日から3年ぶりに事務局長がミャンマーに1週間ほど出張し、必要な作業を進めました。日程は右記の通り。

	内容	補足
10月16日(月)	JICAミャンマー訪問	MOU状況、事業内容など
10月17日(火)	日本大使館訪問、UNHCR会議準備打合せ	MOU状況、新規事業相談
10月18日(水)	UNHCR訪問(現地職員同行)	次年度予算交渉
10月19日(木)	現地職員面談など	中央乾燥地域の聞き取り
10月20日(金)	移動日(ミャンマー→マレーシア→日本)	(マレーシアはフルクル関連)

③Book & Toy ミニライブラリー事業

5月から6月にかけてヤンゴン郊外の寄贈先候補を訪問し、調査をおこない選定会議により決定しました。8月以降、当局の監視体制が厳しくなり一時停止しましたが、11月に団体登録証を受けて再開しました。寄贈先は右記の通りです。

	施設名	場所	種別	裨益者
5月31日	エベネザ自愛の会	トゥワンテ郡	孤児院	小学~高校生・40人
8月24日	シュエヤダナー尼僧学校	シュエビタ郡	僧院学校	小学~高校生・550人
12月29日	ウーウィン孤児院ファミリー	レグー郡	孤児院	小学~高校生・142人



ベトナム

フエ連絡事務所

海外支援活動 ベトナムでの活動

1993年11月、BAJの前身である「インドシナ市民協力センター」を立ち上げ、2023年に30周年を迎えることができました。ベトナム事業の本格的開始は2002年にホーチミン市に事務所を開設し、駐在員2名を派遣して、ゴミ処理の調査を行なったことが契機となり、ホーチミン市第2区アンカイン地区の貧困地域で実証実験として始めたゴミの分別活動が、やがて子どもたちの学習支援や親たちの生活改善などへとつながりました。

2009年に貧困地域の再開発が始まり住民移転が進んだため、活動地をベトナム中部のトアティエンフエ省に移し、フォン河の水上生活世帯や障害児者の支援へと発展し、生活環境の改善やマイクロクレジットの活動を開始しました。

BAJはカウンターパートの行政機関と相談しながら活動を進め、都市化によって農業を放棄する農家が増えているフエ市にあって、郊外で農業を営む農家を対象に、付加価値をつけるための有機野菜の栽培や、少い頭数の養豚農家にはバイオガスダイジェスターの設置による肥料やガスの循環型農業を進め、最終的には農家主体の有機農畜産物を販売する直売所を設置しました。

一方で貧困家庭の子どもたちへの奨学金支援や、フエ市の小中学校と連携して進めている子どもたちへの環境教育授業を継続しました。

2023年はコロナ禍も収束し、オンラインを活用した取り組みに加え、3年ぶりに対面による事業を再開しました。

オンラインでは料理交流会や、環境授業を通じた交流など進めました。一方で日本の大学ゼミ生がフエを訪問してBAJの活動現地を視察したり、インターンとして直売所に大学生を派遣して農家の聞き取りや子どもたちへのヒアリングなどおこない、改善点やアイデアなど報告してもらうなど活躍しました。また日本の高校生グループが、ベトナムでBAJがおこなう環境授業をオンラインで参観したことをきっかけに、2024年にフエを訪問するなど継続した取り組みに発展しています。

ベトナム事業の管理面では、NGO登録の手続きで提出する資料の翻訳が必要となり、時間がかかりましたが11月によりやく完了しました。また11月に職員が現地カウンターパートを訪問し、今後の事業方針など話し合いました。とくに環境教育活動について、質を高め専門家や異なる教育現場との交流を通じて授業の内容を高めていくことなど確認しました。

フエ市の活動

子どもたちと未来について考える

コロナ禍で培った経験を生かして、日本とフエをオンラインで交流する活動を定期的実施しました。環境授業のフエの子どもたちと日本の中学生や高校生の交流授業や、日本のベトナムサポーターとフエの職員によるベトナム料理講習会など、楽しい交流活動もありました。子どもたちの交流では日本の高校生が実際にベトナムを訪問したり、大学生の研修旅行としてベトナムの有機栽培を実践する農家訪問もありました。お互いの交流から環境への意識を高め、何らかの成果に繋げていきます。

1.環境教育事業 資金：資金：輝けアジアの子ども基金、ベトナム寄付

フエ市内の3校で引き続き、カリキュラム「生きる力を伸ばす活動」の一部として、右記の内容で授業を進めました。

学校名	総回数	学年	総人数	内容
ラムモンクアン中学校	9	6年生~8年生	266	気候変動・環境保護法・水質汚染・リサイクル・有機野菜・他
ファムクアンアイ中学校	8	6年生~9年生	218	サンクスレター製作
トゥイスアン小学校	13	4年生~5年生	212	

例えば水質を考える授業では、ペットボトルでミニ浄水フィルターを製作したり、有機野菜を育てたり、また交流授業として日本の高校生グループ「どえりゃあWings」や、駒場東邦中・高生たちとオンラインで環境クイズなどおこないました。さらに課外授業ではアグリツーリズム体験としてフエ近郊の施設「ヴァンテ村」を訪問し、伝統料理や伝統工芸の笠づくりなどを体験しました。



2.教育支援事業 資金：資金：輝けアジアの子ども基金

親の失業や病気などで経済的に困難を抱えている子どもを対象に、学校側と相談しながら対象の児童や生徒を選び、右記の通り支援金を授与しました。

	学校名	学年	人数	給付額
1月17日	トゥイスアン小学校	4年生~5年生	20人	300,000 VND/人
9月5日	ラムモンクアン中学校	1年生~8年生	20人	500,000 VND/人
9月5日	ファムクアンアイ中学校	6年生~9年生	15人	500,000 VND/人



3.農畜産業経営強化支援事業 資金：自己資金

農業は自然エネルギーを最大限に活用した産業

都市化が急速に進むフエ市では、収入が少ない農業をやめて土地を売ってしまう農家が増えています。BAJがフエに拠点を移した2000年頃は、小規模な農家はそれほど大きくない農地にさまざまな野菜を栽培し、10頭前後の豚と鶏などを飼育する小規模な農業を営んでいました。ただし豚の尿尿は垂れ流しで悪臭と土地汚染により、宅地開発された周辺の家からは文句が届くようになっていました。農業はもうからない現実、どう対処したらよいのか。

BAJが考え出したのは、バイオガス・ダイジェスター(BD)の設置で尿尿を肥料に転換し、さらに有機栽培という付加価値をつけた野菜で収入向上を図る、というものでした。農家を集めて何度も話し合い、BD設置にこぎつきました。建設には約5万円ほど必要なため、マイクロクレジットで無理なく返済してもらい、さらにBD設置を希望する農家に返済金を貸し付けるという方法です。こうして約60基のBDが現在も稼働しています。

しかし有機野菜も農薬使用の野菜も同じ価格で売られてしまう現実がありました。そこで有機野菜の専門直売所でそれなりの価格で販売することにし、2014年に有機野菜の直売所1号店を開店し、出荷農家グループを運営委員として自立の道を探りました。大盛況で2号店を1年後に開店しました。資金はJICA草の根技術協力事業で5年間(2014年~2019年)の事業ですが、継続させるためにカウンターパートのフエ市経済部と相談しながら進めました。やはり資金が終了した1年後には農家運営の1号店は閉店となり2号店は引き続きBAJの管理運営で継続しています。

2023年の直売所経営状況 (100,000VND=590円)

	売上(VND)	純利益(VND)	利益率(%)
1月	195,726,754	2,852,504	1.5
2月	132,911,635	2,674,635	2.0
3月	134,354,101	2,075,551	1.5
4月	129,808,560	5,053,250	3.9
5月	135,700,200	2,170,200	1.6
6月	147,291,760	4,092,200	2.0
7月	141,022,300	-469,700	-0.3
8月	141,536,290	2,726,200	1.9
9月	144,908,061	4,018,001	2.8
10月	155,984,510	6,352,010	4.1
11月	154,796,250	7,762,950	5.0
12月	158,116,260	7,182,460	4.5

①農畜産物の販路拡大

2021年~2023年はコロナ禍で売上が落ち込みましたが、オンライン販売や宅配、野菜品目の多様化、SNSで広報など販路拡大に努力しましたが、価格の高騰など出費も多く、利益率は低迷しているため、クーポン券配布など集客に努めました。

また地域の農業組合と連携して「詰め替えプロジェクト」に参加し、店頭からプラスチック容器やビニール袋をガラス瓶や竹カゴに変更しました。また出荷農家グループの畑を定期的に訪問して収穫状況を確認しています。



②直営トゥイビウ畑の管理

2017年から近郊に畑を借りて、BAJの実験農場(トゥビウ畑)として野菜の有機栽培などを進めており、隔週で栽培状況などの報告があります。畑の一角には伝統的な藁屋根の小屋を建て、農器具の収納や訪問客が休めるようにしています。



③エコツーリズム事業

旅行会社と協働してオンラインツアーを2022年に実験的におこない、学習院女子大ゼミグループ学生のオンラインによる農家訪問をおこないました。実際に有機栽培の苦労話や質問など交わし、畑の野菜クイズでは、日本と大きさが2倍くらい違うキュウリに驚いたり印象に残ったようでした。

2023年3月には同大学ゼミの15名が研修旅行の一環として実際に農家を訪問しました。オンラインでの印象と異なり、農業への関心を深めるツアーとなりました。

ほかにベトナム駐在の日本企業の方や、また宇都宮大学の学生1名をBAJのインターンとしてフエ事務所に派遣し、農家や畑を訪問しての聴き取りや、環境授業の学校で実際に参加して生徒たちの感想を聞くなどしてまとめ、帰国後にBAJ東京事務所で開催した報告会を実施して発表していただきました。BAJとしても大変参考になりました。



④ベトナム・サポートチーム

2019年から東京事務所にボランティアのベトナム・サポートチームができました。フエ事務所とオンラインの会議を通じて、活動に関する情報共有や、環境授業のアイデアなどを相談しています。2023年は国際協力に関心のある日本の中高生や大学生グループの3団体とエコツーリズムなどを検討しました。



4.環境など交流事業の構築に向けて 資金：自己資金

現地の活動を訪問してつながろう

コロナ禍で培ったオンラインによる交流事業は、実際に現地訪問前の学習体験として大変有効であると確信しました。単なる観光に留めることなく、環境というテーマに沿って確実に個人が行動する社会に向けてBAJは実験的な事業を進めていきます。

環境授業のレベルアップ

2022年に実施したオンラインツアーで学んだことを前提に、実際に訪問して学ぶ経験は、疑問や提案などにつながっていくことが分かりました。

ベトナムのフエ市内の小学校から中学・高校の生徒対象に進めてきた環境授業について、ただ書物からの知識では得られない、経験や実験を通して実践に繋げるような質の高い学びが必要です。

日本の教育現場で環境問題について取り組んでいる駒場東邦中学高校の教師と出会い、さらにベトナムの生徒たちと繋げることで得られるものがあると考えました。実際に環境破壊による地球温暖化は進み、現在生態系の異変や気候に大きな影響を与える段階に来ています。私見ですが、一部の国が進めているように日本も学校教育に「環境」を取り込むべきだと考えています。

このような思考を経て、駒場東邦中学高校とベトナム環境授業のコラボレーションに至り、オンラインでの顔合わせから始まって交流事業を決め、2024年には駒場東邦の生徒40名がフエの中学校を訪問して環境の交流授業をおこなっています。この取り組みを大事に育てていきたいと考えています。



5.総務・管理

①NGO登録

登録には登録者となる人物の犯罪歴証明書および団体登記簿の領事認証、翻訳公証が必要です。そのため警視庁と外務省での手続きを進め、8月に申請手続きを進め、11月によりやく正式なNGO登録証を取得しました。これにより使用できなかった銀行口座が使用可能となり、正式なビザ申請もできるようになりました。

②出張

10月7日から6日間、事務局長がベトナムに出張しました。主な内容は以下の通り。

	内容
10月 7日	ホーチミン:第一三共Tさん打合せ、日越野球協会Kさん打合せ
8日	ホーチミン→フエ移動
9日	フエ:環境教育事業の中長期計画、フエ市経済部Tさん訪問
10日	フエ:直売所中長期計画、東京事務所とオンライン会議
11日	フエ:生産者訪問イベント、スタディツアー、インターン派遣打合せ
12日	フエ:職員面談、ラムモンクワン中学訪問

③インターンの派遣

9月4日～9日まで宇都宮大学生1名をインターンとしてフエ事務所に派遣しました。BAJがフエで実施中のすべての事業に参加し、聞き取りをおこない、まとめました。帰国後は東京事務所で関係教諭も参加しての報告会を実施、この交流を今後は2週間程度の内容で継続することになりました。

9月 4日	フエ事務所で自己紹介、スケジュール確定、農家訪問と聞き取り
5日	ラムモンクワン中学始業式参加、生徒インタビュー、農家聞き取り
6日	直売所聞き取り、トゥイスアン諸学校・校長訪問、生徒聞き取り
7日	環境教育活動についてアイデア出し、
8日	直営畑訪問と聞き取り
9日	インターン活動まとめとイベント用雑貨の調達

TOKYO



東京本部の活動

BAJは2023年11月に設立30周年を迎えました。UNHCRの要請を受け、BAJは1995年にミャンマー現地で活動開始しましたが、軍政下であり、電話やファックスは盗聴され、どこへ行くにも警察や軍が付いてきました。信用を得るには受け入れざるを得ず、応じてきましたが、5年もたつと個人的な話もできるようになりました。

2010年にスーチー氏が軟禁を解かれ、2011年の総選挙でテインセイン氏が大統領となり、民主化への道が開かれました。また2014年総選挙ではNLDが大勝し、スーチー氏は最高顧問という肩書を名乗り「黄金の5年間」と呼ばれる民主政権が誕生しました。しかし2021年の国軍クーデターにより、その輝きは突然収束しました。

ミャンマー国軍はクーデター以降、とくにNGO活動に対する厳しい規制をかけ、活動は減速せざるを得ませんでした。住民運動から始まった民主化運動は、やがて少数民族の武装勢力による内戦の様相を呈し、次第に勢力を拡大して2023年後半には戦闘地域がラカイン州にも及び、マウンドー事務所事業は当局からの移動許可が得られず事業進捗は停滞、さらに封鎖されて職員はもちろん、住民は避難することもできない状況です。戦闘は拡大し、国軍の撤退地域も出てきており、今後の見通しは全くつかない状態です。

東京事務所はなんとかミャンマー事業を継続するための方策を模索し、比較的安定している中央乾燥地での給水事業を復活させる見通しができました。これもBAJがミャンマー



で作り上げてきた長年の実績があったからのことと、ご尽力いただいた関係各位に感謝を申し上げます。

さらなる資金調達のためにミャンマー案件を民間財団などに申請したものの、治安状況の悪化が理由と思われる不採択に没してきました。しかしBAJは諦めません。2023年はさまざまな工夫を凝らして活動を続けてきたことは、これまでメルマガなどでご報告してきた通りです。

一方、ベトナム事業は新たな展開が予想されます。2003年に子どもたちの活動として始まったホーチミンのゴミ分別回収から派生した環境教育活動はフエでも継承され、新しい展開として日本の生徒との環境をテーマにした交流という活動に発展してきています。今後に期待したいと考えています。

BAJ東京事務所は、主に管理部門の資金調達のために2011年から古着回収事業「フルクル」を開始しました。SDGsの動きもあって協力企業や個人が増加し、とくに商業施設が開催するイベントによる古着回収量が増え、2023年10月には過去最高の寄付金を集めることができました。

またコロナ禍で培ったオンラインによるイベントや会議の開催など継続して活用し、効率的な事務所運営を進めました。

主な事業と資金調達

会員は減少傾向にあります。寄付についても2022年より減少しています。そうした状況のなかで、団体や企業、また個人からの高額寄付をいただきました。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

1.会費と寄付

2023年も個人会費1万円/年、団体会費3万円/とし、12月末の会員数は、個人会員69名で未納者6名のため63万円、団体会員11団体で未納3団体のため27万円となり、会員からの会費収入は合計90万円でした。

団体が会員となる団体内での手続きは難しく、団体会員が増えない大きな理由になっているようです。また会費が寄付控除の対象とならないことも増えない理由の一つではないでしょうか。

会費や寄付でご支援いただいた団体や企業は以下の通りでした。

	団体・企業など
ミャンマー寄付	国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)、三菱商事、熊谷組、ヤフー、島田商事、フクダ・アンド・パートナーズ、ロイヤリティマーケティング、G&Sフィールド合同会社
ベトナム寄付	輝けアジアの子ども基金、キャンノン、BOLSTER、パブリックリソース財団、島田商事
一般・寄付会費	法人・団体会員 / 大木組、ケアセンターやわらぎ、国際航業、ダイナックス、トリコ、日光物産、ピロタス、日本開発サービス、テクノレッジ・ジャパン、宮館産業、国際ビジネスコンサルティング事業協同組合 法人・団体寄付 / G&Sフィールド合同会社、からあげ元気亭、ピロタス、プギ、フクダ・アンド・パートナーズ、寿光、渋谷区民部地域振興課、新日本産業、大阪マラソン組織委員会、ケアセンターやわらぎ、日光物産、日本出版販売、Omni360
募金キャンペーン	日光物産、ピロタス、ケアセンターやわらぎ、ドリープス外国法事務弁護士事務所、G&Sフィールド合同会社

*個人情報のため個人寄付は非表示としています。募金キャンペーンの詳細は次項目をご覧ください。

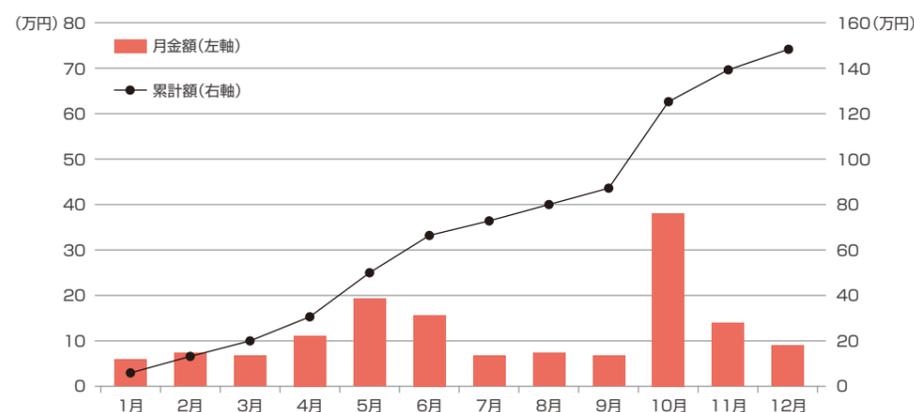
2.寄付

NGO活動の基盤となる活動資金として「会費」のほかに「寄付」と、「助成金・補助金」があります。BAJではさまざまな寄付のプログラムを用意しています。会費と寄付はNGOにとって活動資源となる大切な資金です。団体の理念や目指す目標に賛同し、活動を維持する資金として寄付、あるいは会員となって支援する仕組みとしてNGO(特定非営利活動法人)という法人格をいただいています。支援者の志向にあった寄付の種類でご支援ください。

BAJでご用意している寄付のプログラムは右記の通りです。

以下のグラフでは、ボーナス時期に「BAJ寄付」が多く集まりました。

寄付金額の推移と累計額(2023年)



BAJの寄付プログラム

番号	寄付種	内容
1	BAJ寄付	時期を選ばず、主に東京本部の管理費や緊急時に充当
2	寄付キャンペーン	夏と冬のボーナス時期に実施、ミャンマーやベトナム支援
3	サポーター	「まるごと」は管理費に充当、「輝けアジアの子ども基金」はベトナムの子ども対象
4	緊急支援募金	支援国の災害など緊急時
5	遺贈寄付	故人の遺志による寄付
6	ネットサイトから	ネット上の寄付サイトによる寄付、クラウドファンディングなど
7	不要品換金寄付	「フルクル」は集めた古着買取業者が換金して寄付、ほかに古本、貴金属など
8	不用品	不使用のはがき、切手、文房具など(事務所で使用)

3.寄付プログラム

NGO(特定非営利活動法人)にとって、活動の資金は大切です。資金を得るために、団体の理念や実際の活動内容に共感していただき、活動維持のために会費や寄付、ボランティアを集め、そうした資源を大切に使うことで活動を進めていきます。ほかに資金として「補助金」「助成金」という政府や財団、企業などが団体に対して拠出するものもあります。

いずれにせよ活動を広く知っていただくことから始まり、集まった資金の使途を明らかにし、活動の成果を報告することで次の支援につながっていきます。

BAJでは活動資金獲得のために寄付のプログラムをいろいろご用意しています。

①募金キャンペーン

2023年から2024年にかけて募金キャンペーンを実施しました。とくに例年の冬・夏募金に加え11月に「BAJ設立30周年記念募金」としてクラウドファンディングを併用して実施し、多くのご支援をいただきました。

	募金テーマ	期間	金額(円)
1	冬募金 / 楽しさを少しでも増やそう	2023年2月~4月	417,000
2	夏募金 / どんなときでも学び続けられる場所を	2023年6月~9月	1,077,964
3	30周年記念募金 / 未来への架け橋、これからの10年も私たちは挑戦し続けます!	2023年12月~	2,047,210

*2023年12月末までの数字



②ネットサイト募金

SNS上に上がっている募金サイトについて、2023年も引き続き4団体からの募金が集まりました。詳細は以下の通りです。

名称	Give One	Yahoo! volunteer	本棚お助け隊	お宝エイド	合計(円)
金額	50,685	752	34,555	28,609	114,601

*Give One:女性の生活改善、子ども夢応援募金

*Yahoo! volunteer:水募金

③不要品の換金プログラム

古本や使用しなくなったカメラや時計などを取扱店舗に送ってもらい、買取金額がBAJへの寄付となるプログラムです。「本棚お助け隊」と「お宝エイド」が該当しています。「フルクル」は次ページで紹介しています。

東京事業

非営利団体の運営では、本部管理部門の費用捻出がなかなか理解してもらえません。人件費は給料として計上できますが、その他本部の家賃や交通費、電話や光熱費などは自前になります。そこで東京でも何かできる事業はないかと考えたのが、古着の回収事業です。問い合わせも多くSDGsにも該当し、管理費獲得のために最適と考えていました。しかし集まった衣類を保管する倉庫がありません。

2011年に関西に倉庫を持つ企業さまからお声をかけていただいて開始した事業が「フルクル」です。現在では年間100万円を超える事業に成長し、2024年からは関東圏の企業さまの協力いただきました。ご支援くださる皆様の送料負担が少し軽減されることになりました。どうぞご活用ください。

1.古着回収事業フルクル

日本の古紙回収率80%以上で世界に誇るリサイクル率ですが、古着のリサイクル・リユース率は20%以下です。また服の多くは海外で製造されており、工程で水を大量に使うなど環境への影響が問題になっています。

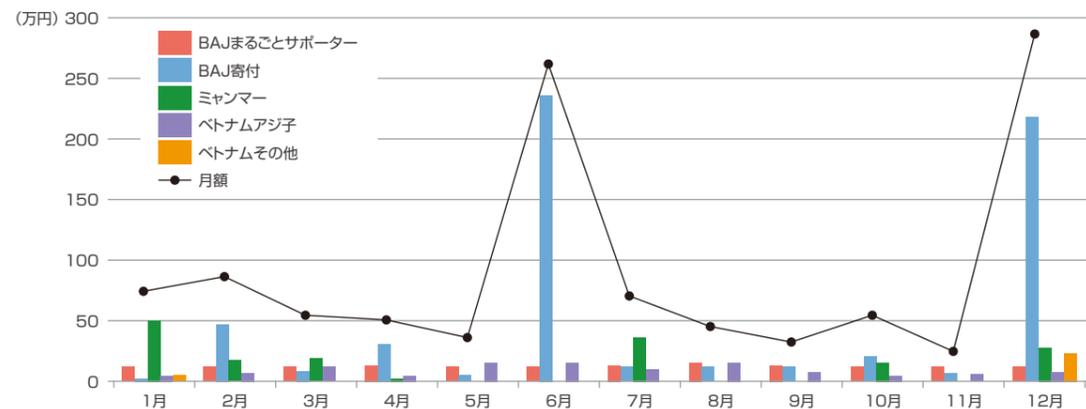
BAJは2023年も引き続きフルクル事業を継続しました。ご協力いただいた方には、受領書、お礼状、チラシなど同封して返送することで、寄付募金に応じる事例が増えています。古着は自治体の回収に出す例が多いようですが、SDGsの観点からフルクルの利用が増えていると思われます。BAJでは各自治体の社会福祉協議会に対してもフルクルのチラシを配布して利用者の拡大を図っています。

さらに集合店舗やデパートなどが古着を店頭回収し、買い物券と引き換えるイベントを催し、集まった古着をフルクルへ寄贈する取り組みが増えています。

2023年の年間古着回収の実績は、伸びてきました。重量で90,759kg、買取金額は1,492,233円で、2022年を少し下回りましたが順調に推移しています。

①寄付金額(買取金額)の月次推移

寄付額の推移(2023年)



※BAJ寄付:BAJ寄付、開始愛読費、本棚お助け隊、冬募金、夏募金、30周年募金
 ※ミャンマー:女性の生活改善募金、水募金
 ※ミャンマー:アジ子(輝けアジアの子供基金)、その他(子どもの夢応援募金)



ダンスイベント STEPJAM にてフルクルの回収ボックスが設置された

②古着回収イベント

日本ではテレビなどでSDGsが紹介されて拡散しました。協力する手段として一番身近なことが、古着の回収だったのではないのでしょうか。物価高騰の日本では、中古品が注目され、古着に対する考えも変化しているのでしょうか。

国際協力と古着のセットは身近になり、企画会社による集合店舗での中古服回収イベントが増えています。中古服引取りと買物券プレゼントをセットにしたイベントが増えています。集まった古着は買取業者によってアジアなどに輸出され、中古市場で売買されリユースされ、買取金額の一部がBAJへの寄付となります。

BAJは2011年より古着回収を開始し、今では個人を中心に学校や企業、グループなど多様なルートで古着が集まっています。

2024年8月からは、関東圏での回収が始まり、送料の負担が少し軽減されます。ぜひご協力ください。

2023年に各地で実施された中古服回収イベントは以下の通りでした。

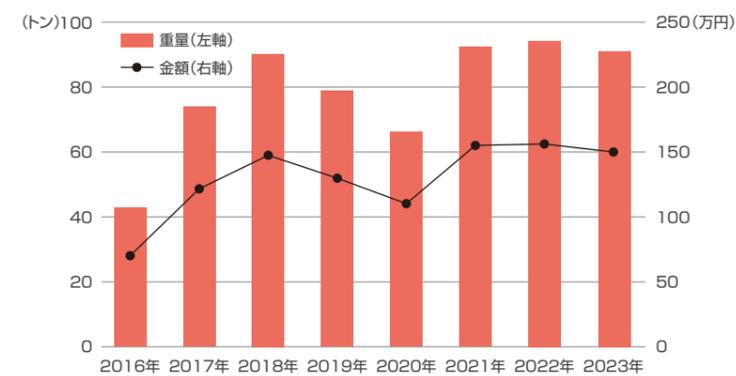
	期間	開催場所	イベント名	箱数
1	2月18日~19日	ラスカ茅ヶ崎	衣料品&コスメ下取り	22
2	2月19日	ラスカ平塚		
3	2月24日~26日	グランデュオ立川	エコキャンペーン	73
4	3月17日~31日	オリビア各店舗(愛知・岐阜)	下取り&買換え	36
5	3月18日~19日	ルミネ町田	洋服・コスメ下取り	9
6	4月15日~16日	大船ルミネウイング	洋服下取り&買換え	186
7	5月19日~28日	ファボーレ富山	リサイクルキャンペーン	646
8	6月17日~18日	横浜ジョイナス	Tシャツ下取り	75
9	6月24日	本厚木ミロード	洋服下取り&買換え	12
10	7月1日~2日	ジョイナステラス二股川	Tシャツ下取り	24
11		相鉄ライフミツ境		
12	8月16日~22日	丸由百貨店(鳥取)	洋服・コスメ下取り	19
13	9月15日~16日	コロワ甲子園	衣料品回収エコキャンペーン	37
14	9月16日	ラスカ平塚	衣料品・コスメ下取り	6
15	10月6日~15日	ファボーレ富山	リサイクルキャンペーン	476
16	10月7日~8日	大船ルミネウイング	洋服下取り&買換え	172
17	10月21日~22日	御影クラッセ	古着でキャッシュバック	148
18	10月25日~31日	丸由百貨店(鳥取)	洋服・コスメ下取り	29
19	10月28日~29日	横浜ジョイナス	コート下取り	150
20	11月1日~5日	オリビア各店舗(愛知・岐阜)	下取り&買換え	32
21	11月4日~5日	ジョイナステラス二股川	コート下取り	45
22		相鉄ライフミツ境		

古着の送り先

関東圏
〒260-0824 千葉県千葉市中央区浜野町972 千葉紙業気付 BAJ倉庫行 TEL:03-3372-9777
関西圏
〒662-0934 兵庫県西宮市西宮浜3-14-4 日光物産気付 BAJ倉庫行 TEL:03-3372-9777



古着改修実績の推移



2. マンスリーサポーター

毎月定額を指定口座から引落してご寄付いただくプログラムで、2種類あります。毎回振り込むのが面倒という人向けです。

① 輝けアジアの子ども基金

経済成長の著しいベトナムですが、開発から取り残されている人々も多い国です。ホーチミン第2地区アンカインは、観光客が訪れる華やかな1区の川を1本隔てた地域です。2000年代当時は、地方から出てきた人々が川沿いに簡易な小屋を建てて住み着いた貧しい地域で、子どもたちは就学せず毎日川を横断するフェリーに乗り込んで、客に宝くじを売って稼ぐ子どもたちも見受けられました。

BAJでは子どもを集めて就学支援を開始、同時に大学生ボランティアが勉強を教える活動を進めました。小さい子どもにはお絵描きやお遊戯で遊びます。現在2地区は住民移転により再開される計画です。

BAJは2011年から拠点をフエに移し、フォン河の水上生活の子どもたちの支援や貧しい家庭の子ども支援、さらに船の暮らしでは水道や電気が取れないため、川沿いに水道管を引いて共同で使えるようにしました。また教育を受けていない親も多く、夜に親を集めて算数や識字の勉強会を開催することもありました。

現在フエの子どもたち対象の活動は、学校の授業時間を使って環境の授業を進めています。なるべく実験などを通して実感してもらうような授業を進めています。

サポーターには、年に一度子どもからお手紙と活動報告が届きます。

サポーター(1口2,000円/月)

口数	人数	口数	金額
1口	26	26	52,000
2口	7	14	28,000
3口	1	3	6,000
計	34	43	86,000

② BAJまるごとサポーター

活動全体を統括する管理部門の支援や緊急時に備えます。例えば家賃、通信費、電気代などは自前で捻出しなければなりません。

サポーター(1口1,000円/月)

口数	人数	口数	金額
1口	20	29	29,000
2口	17	34	34,000
3口	5	15	15,000
4口	1	4	4,000
5口	4	20	20,000
10口	3	30	30,000
合計	59	132	132,000



広報活動

事業を海外で進めるNGOにとって、支援者と現場を繋ぐ広報活動は大切です。とくにNGOの顔となるホームページは、最新の情報掲載や寄付、会員の窓口となります。2024年8月にホームページをリニューアルしました。ぜひ新ホームページにアクセスしてみてください。

BAJの海外活動を広く知ってもらい、また支援者を獲得するためにも広報活動は大切です。BAJでは紙媒体の「BAJ通信」をはじめ、メールやSNSを通じて現場からの報告を更新しています。

1. 会員・支援者への広報

会員や支援者を対象に「BAJ通信(年/4回)」、「年次報告書(年/1回)」を発行しました。通信は8ページ・カラーでお届けします。何度も読み返しができ、大事な情報を取っておくことができます。

オンラインでお届けする「BAJメールマガジン(月/1回)、配信数約5,000部」は、活動現地からの事業報告や、また日々の生活情報などをのせています。「お知らせメルマガ(月/1回)配信数約5,000部」を発行し、ボランティア募集や現地派遣職員の報告会やイベント情報などをお知らせしています。

2. SNSを通じた広報

BAJの活動を広く知ってもらう目的で、Facebook、ツイッター(X)、インスタグラムなどに投稿しています。とくに30周年を記念して開始したインスタグラムではBAJのこれまでの活動などを写真とともに紹介しています。

	投稿先	内容	フォロワー/人
1	Facebook	開催した催事のお知らせや報告	1,980
2	ツイッター(X)	開催した催事のお知らせや報告	1,650
3	インスタグラム	BAJ海外活動の足跡を掲載	230

*フォロワー数は2023年12月現在

3. 講演・講義、イベント出展など

BAJ主催の報告会・イベントや外部依頼の講演・講義などオンラインでの開催が増えています。コロナ禍の収束に伴い対面のイベントが復活しています。



	開催場所	イベント名	開催場所
1月20日	2枚目の名刺・NPOカフェ	NPO経験交流	オンライン
1月22日	IDCF/ミャンマー-日本交流団体	ミャンマー活動講演	オンライン
1月27日	三菱商事	ミャンマー活動報告	オンライン
2月4日	東京女学館中学生・ボラ体験	活動紹介とボラ体験	東京事務所
2月18日	ベトナム料理交流会	バインセオ料理	オンライン(幡ヶ谷)
2月25日	大阪マラソンEXPO2023	寄付先団体出展・受付	インテックス大阪
3月17/22/29日	ベトナムアジア子交流授業	どえりゃあWingsとアジ子	オンライン
5月20日	ミャンマー祭り	活動展示・物品販売	東京・増上寺
5月22日	宇都宮大インターン説明会	BAJ活動紹介	オンライン
9月30~1日	グローバルフェスタ	活動展示・物品販売	東京国際フォーラム
	STEP JAPAN	出展・フルクル紹介	立川ステージガーデン
10月30日	宇都宮大インターン報告説明会	BAJ活動紹介	オンライン
11月14日	ヤンゴン日本人交流会	日本人会とNGO交流会	オンライン
12月9日	BAJ30周年記念イベント	BAJの歩み・現場報告	JICA東京



4.ネットワークなど

国際機関、行政機関、NGO/NPOなどが実施する会合に参加し、情報共有や交流、さらに共同事業などを進めました。2023年の協働先は右記の通りでした。とくにJNNIは、ミャンマーで活動する日本のNGOの集りで、悪化するミャンマー国内の情報を共有する貴重な場となっています。

団体・グループ	内容
J-FUN	UNHCRと連携するNGOによる交流・情報共有
NGO-外務省定期協議会	外務省に対する提案など意見交換の場
ケアセンターやわらぎ	高齢者対象の介護・支援事業を推進団体
NGO-JICA協議会	JICAとNGOの意見交換と情報共有
JANIC/国際協力NGOセンター	国際協力NGOの連携団体
バイオメディカルサイエンス研究会	ベトナムでの衛生事業についての情報共有
ICVA/人道支援提言団体	人道支援NGOの連携団体でUNHCRに提言など
日光物産	BAJフルクル事業を協働推進
ドットジェイビー	大学生のインターン希望者をNGOに紹介
二枚目の名刺	NPOと企業社会人が協働で課題に取り組む
JNN/日本NGOネットワーク	ミャンマーで活動する日本NGO、情報共有
どえりゃあWings	ベトナムの子どもとオンライン交流授業
Bizjapan	ベトナムの活動協力と相談

5.参加した外部研修、会合、説明会、イベントなど

職員を中心に、必要と思われる外部会合などに積極的に参加しました。

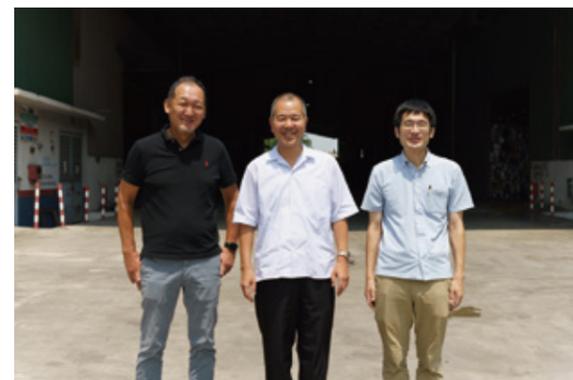
開催日	開催内容	参加形態	会場	参加者
3月16日	高橋昭雄教授 最終講義	オンライン参加	根本他	オンライン
4月18日	トヨタ財団助成金説明会	説明会参加	新石	オンライン
9月21日	丸山ミャンマー大使講演	ミャンマー友好協会主催 オンライン講演参加	新石	オンライン
10月27日	ミャンマー交流会	ミャンマー祭り主催交流会	新石	アジアン酒場
11月14日	ヤンゴン日本人会 NGO交流イベント	ヤンゴン日本人会と日本NGO職員の交流、オンライン・オブザーバー参加	新石	オンライン

6.BAJカフェ、ボランティア説明会

2022年に引き続きボランティア希望者についてオンラインや対面で個別に対応しました。その際に学生インターンやボランティアにお手伝いいただくこともありました。在宅でできるボランティアとして英語やベトナム語の翻訳で活躍する方もいらっしゃいますし、イラストを描いたり、イベントのBAJブースで物品販売など、専門的な仕事から誰でもできることなどでお手伝いください。

2023年にお手伝いいただいたボランティアは、延べ135名でした。オンライン・ボランティア説明会は以下の通りです。

開催日	表題	担当	参加	場所
4月1日	やってみよう、身近なSDGsフルクル説明会	新石、澤渡ほか	5名	オンライン
9月23日	BAJナイトカフェ、今から始める国際効力	新石、岡、宗方ほか	5名	オンライン



総務・管理

BAJの活動全体を統括する東京本部事務所は、数名の職員とボランティアやインターンの助けを借りながら事業を進めています。オンライン会議やオンラインでの手続きなどが一般化してきた成果であると考えます。

①日本人の異動

異動日	氏名	新	旧
1月1日	大野 勝弘	シニア・スタッフオフィサー / 東京事務所、兼プログラムマネジャー代行 / マウンドー事務所 (非常勤)	シニア・スタッフオフィサー / 東京事務所 (非常勤)
1月20日	相葉 翔太	退職	プログラムマネジャー / マウンドー事務所

②インターンの受け入れ

	氏名	所属	期間	内容	紹介
1	長崎 玲弥	大学1年	2月8日～3月31日	広報作成・環境教育提案など	ドットジェイビー
2	澤渡 千里	大学1年	2月8日～4月1日	広報作成・イベント企画実施など	ドットジェイビー
3	田島 敏行	会社	7月10日～(3か月)	国内事業全般	BAJ応募
4	後藤 萌	大学1年	8月7日～(2か月)	フルクル営業など	ドットジェイビー
5	川本 結月	大学1年	8月1日～(1か月)	オンライン・イベント企画・実施	ドットジェイビー
6	宗方 すずな	大学3年	8月22日～9月23日	ベトナム事業補佐・フエ派遣	宇都宮大学

③総務関連

2023年も引き続きフレックスタイムやリモートワークの勤務体系を継続しました。職員の給与支給や保険関連の管理業務、会員の管理、その他法人維持管理に必要な業務を進めました。

海外事業支援

海外出張や派遣が困難な状況のなか、オンラインによる情報共有を定期的に行い、適切な対応を進めました。また海外事務所における入退職にかかわる通知、現地職員とのオンラインによる面談などを進めました。とくにミャンマー事業では、2021年クーデター以降、渡航制限や移動制限、また銀行からの引出し制限など、事業を計画通りに進められない困難が続いています。現地事務所とはオンラインで頻りに連絡をとり、できる活動を進めました。とくにミャンマーの現地スタッフは、BAJでの職歴が長い経験者がそろっており、彼らの知見やアドバイスは貴重なものとなっています。

①出張

必要と判断した出張を以下の通り実施しました。

日程	出張者	出張先 / 内容
10月4日～5日	新石	マレーシア / フルクルNikko Fibre工場視察同行など
10月6日～7日	新石	ベトナム / ホーチミン 第一三共支社長打合せなど
10月8日～13日	新石	ベトナム / フエ市経済部、提携先中学校打合せなど
10月14日～20日	新石	ミャンマー / ヤンゴン、UNHCR、JICA、大使館打合せなど

2023年会計報告

活動計算書 (自2023年1月1日～至2023年12月31日)

【経常収益】		(単位:円)	
1. 受取会費(注1)	900,000	900,000	
2. 受取寄付(注2)	10,635,262	10,635,262	
3. 受取助成金等	受取助成金(注2)	0	73,933,699
	受取補助金(注3)	73,933,699	
4. 事業収益	1,887,242	1,887,242	
5. その他収益	4,598,081	4,598,081	
経常収益計(A)		91,954,284	

【経常費用】		(単位:円)	
1. 事業費	人件費	41,639,090	76,909,781
	その他経費	35,270,691	
2. 管理費	人件費	8,341,089	12,269,017
	その他経費	3,927,928	
経常費用計(B)		89,178,798	

【経常外費用】		(単位:円)	
3. 経常外費用	補助金返還額	0	0
経常外費用計(C)		0	0

当期経常増減額(A)-(B)	2,775,486
当期正味財産増減額(A)-(B)-(C)	2,775,486
前期繰越正味財産額(D)	68,795,988
次期繰越正味財産額(A)-(B)-(C)+(D)	71,571,474

注1 受取会費内訳	(単位:円)
個人会費	630,000
団体会費	270,000
受取会費計	900,000

注2 受取寄付・受取助成金内訳	(単位:円)
BAJ一般	6,093,614
まるごとサポーター	1,526,000
ミャンマー	1,666,566
ベトナム	283,082
輝けアジアの子ども基金(ベトナム)	1,066,000
受取寄付・受取助成金計	10,635,262

※主な寄付先は「国内活動報告1 主な事業と資金(1)」にある表をご参照ください。

注3 受取補助金内訳	(単位:円)
国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)	
・ミャンマー/ラカイン州	73,933,699
支援ニーズ即応事業実施サポートと車両等機械類の修理・整備	
受取補助金計	73,933,699

事業別損益の状況

科目	ミャンマー			ベトナム事業	国内事業	事業部門合計	管理部門	合計
	ラカイン州地域開発事業	ラカイン州学校校舎建設とコミュニティ開発	中央乾燥地域における生活用水供給事業					
I 経常収益								
1 受取会費	0	0	0	0	0	0	900,000	900,000
2 受取寄付金	286,997	0	502,478	1,349,082	731,925	2,870,482	7,764,780	10,635,262
3 受取助成金等								
受取助成金	0	0	0	0	0	0	0	0
受取補助金	73,933,699	0	0	0	0	73,933,699	0	73,933,699
4 事業収益	3,355	0	23	105,500	1,698,044	1,806,922	80,320	1,887,242
5 為替差益	0	0	0	0	0	0	4,178,643	4,178,643
6 その他収益	0	0	0	169	0	169	419,269	419,438
経常収益計	74,224,051	0	502,501	1,454,751	2,429,969	78,611,272	13,343,012	91,954,284
II 経常費用								
(1) 人件費								
給与手当	39,157,888	0	3,892	2,477,310	0	41,639,090	6,559,228	48,198,318
法定福利費	0	0	0	0	0	0	1,625,861	1,625,861
退職給付費用・退職共済掛金	0	0	0	0	0	0	156,000	156,000
人件費計	39,157,888	0	3,892	2,477,310	0	41,639,090	8,341,089	49,980,179
(2) その他経費								
資機材費	20,494,733	0	2,661	385,264	0	20,882,658	0	20,882,658
派遣専門家費	0	0	0	0	0	0	0	0
広報印刷費	0	0	0	1,383	790,438	791,821	17,502	809,323
旅費交通費	2,062,401	0	2,249	335,842	9,296	2,409,788	95,871	2,505,659
通信運搬費	798,870	0	469	55,759	334,990	1,190,088	190,471	1,380,559
消耗品費	2,077,540	0	674	37,544	0	2,115,758	1,300,102	3,415,860
修繕費	2,141,010	0	120	127,884	0	2,269,014	0	2,269,014
賃借料	1,193,301	0	4,238	546,772	0	1,744,311	727,775	2,472,086
減価償却費	0	0	0	0	0	0	0	0
保険料	664,624	0	518	0	0	665,142	6,310	671,452
調査研究・研修費	541,545	0	0	3,297	0	544,842	0	544,842
諸会費	0	0	0	0	0	0	195,650	195,650
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税等	0	0	0	0	0	0	70,000	70,000
支払手数料	210,571	689	14	127,224	0	338,498	326,675	665,173
為替差損	0	0	0	0	0	0	0	0
雑費	2,280,479	0	13,829	24,463	0	2,318,771	997,572	3,316,343
その他経費計	32,465,074	689	24,772	1,645,432	1,134,724	35,270,691	3,927,928	39,198,619
経常費用計	71,622,962	689	28,664	4,122,742	1,134,724	76,909,781	12,269,017	89,178,798
当期経常増減額	2,601,089	-689	473,837	-2,667,991	1,295,245	1,701,491	1,073,995	2,775,486

貸借対照表 (2023年12月31日現在)

【資産の部】		(単位:円)	
流動資産	現金預金	現金	660,510
		流動性預貯金	34,093,180
	流動資産	ミャンマー現預金	41,067,525
		ベトナム現預金	667,533
		商品	10,283
		立替金	0
		未収入金	0
		前払金	0
		仮払金	0
		未成工事支出金	0
固定資産	有形固定資産	機械装置	1
投資その他の資産	敷金	0	
資産合計			76,499,032

【負債の部】 (単位:円)

流動負債	未払法人税	70,000	2,158,259
	その他未払金	0	
	前受会費	10,000	
	前受寄付金	0	
	前受助成金	0	
	前受補助金	389,621	
	その他前受金	0	
固定負債	預り金	417,610	2,469,299
	仮受金	1,271,028	
	退職給付引当金	0	
負債合計	長期借入金	300,000	4,927,558

【正味財産の部】 (単位:円)

前期繰越正味財産	68,795,988
当期正味財産増減額	2,775,486
正味財産合計	71,571,474
負債及び正味財産合計	76,499,032



財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日NPO法人会計基準協議会)によっています。同基準では、特定非営利活動促進法第28条第1項の収支計算書を活動計算書と呼んでいます。

(1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定額法で償却をしています。

(2) 引当金の計上基準

・退職給付引当金
スタッフの退職給付に備えるため、就業規則に基づく期末自己都合要支給額から中退共制度の支給見込額を控除した団体負担見込額を計上しています。

(3) 消費税等の会計処理

消費税は税込経理によっています。

2. 使途等が制約された寄附金等の内訳

内容	前期繰越	当期受入額	当期減少額	備考		
				期末残高	前受金	事業期間
国連難民高等弁務官事務所/ミャンマー・ラカイン州における車両等機械類の修理・整備/支援ニーズ即応事業	2,214,873	72,108,447	73,933,699	389,621	389,621	2022/1/1~2023/12/31 2023/1/1~2023/12/31

3. 役員及びその近親者との取引の内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

	(単位:円)			
	受取会費	受取寄付金	管理費 賃借料	合計
財務諸表に計上された金額	900,000	10,635,262	727,775	12,263,037
うち役員及び近親者との取引	80,000	440,456	630,000	1,150,456

4. 固定資産の増減内訳

科目	取得価格	期中増加資産	期中減少資産	当期償却額	償却累計額	期末帳簿価格
(有形固定資産) 機械装置・井戸掘削機	15,422,173	0	0	0	15,422,172	1

(単位:円)